

令和6年度 政策チェックアップ評価書

施 策 目 標：23 整備新幹線の整備を推進する

施策目標の概要及び達成すべき目標

広域的な幹線鉄道ネットワークの質的向上により、全国一日交通圏の形成に寄与する観点から、整備新幹線の整備を推進する。

業績指標

指標番号	業績指標名
73	鉄道整備等により 5 大都市からの鉄道利用所要時間が新たに 3 時間以内となる地域の人口数 *
74	新幹線を利用する旅客数

業績指標の分析

(73) 鉄道整備等により 5 大都市からの鉄道利用所要時間が新たに 3 時間以内となる地域の人口数 *

目標達成状況の評価		N					
	初期値	実績値					目標値
	R 6 年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度	R16 年度
実績値	0 万人	—	—	—	—	0 万人	120 万人
年度ごとの 目標値		—	—	—	—	—	
（事務事業等の実施状況） 現在建設中の北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）については、令和 7 年 3 月に、「北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）の整備に関する有識者会議」において、現時点では、完成・開業は概ね令和 20 年度末頃となることが見込まれるが、トンネルの貫通に一定の目途が立った段階で、改めて全体工程を精査し開業時期を定めることが適切であることなどを内容とする報告書が取りまとめられたところ。 未着工区間である北陸新幹線（敦賀・新大阪間）及び九州新幹線（新鳥栖・武雄温泉間）については、一日も早い全線開業に向けて、丁寧かつ着実に取組を進めているところ。							
（その他の外部要因の状況） —							
（目標の達成状況に関する分析） 令和 6 年度が本業績指標の基準年度であり、進捗状況については判断できないため N と評価した。							
（課題の特定） —							

(74) 新幹線を利用する旅客数

目標達成状況の評価	A
-----------	---

	初期値	実績値					目標値
	R 2 年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度	R 6 年度
実績値	1 億 5630 万人	1 億 5630 万人	1 億 9536 万人	2 億 9548 万人	3 億 5645 万人	3 億 8593 万 人	3 億 7000 万人
年度ごとの 目標値		—	—	—	—	—	

(事務事業等の実施状況)

順次新幹線ネットワークが構築されてきており、近年では、令和4年9月に九州新幹線（武雄温泉・長崎間）、令和6年3月に北陸新幹線（金沢・敦賀間）が開業した。

現在、北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）、北陸新幹線（敦賀・新大阪間）、九州新幹線（新鳥栖・武雄温泉間）の各整備計画路線の着実な整備に取り組んでいる。

(その他の外部要因の状況)

新型コロナウイルスによる影響からの回復傾向等が見られる。

(目標の達成状況に関する分析)

新型コロナウイルス感染症の影響からの回復傾向が引き続き見られるほか、令和4年9月の九州新幹線（武雄温泉・長崎間）の開業や令和6年3月の北陸新幹線（金沢・敦賀間）の開業等により、目標値を達成したため、A と評価した。

(課題の特定)

評価結果
（目標達成度合いの測定結果） ③ 相当程度進展あり
（判断根拠） 業績指標 2 個のうち、A が 1 個、N が 1 個であった。 業績指標 73 について進捗状況について判断できないものの、業績指標 74 については目標を達成しており、整備新幹線の着実な整備を進めているところであるため、「③相当程度進展あり」とした。
（施策全体の総括分析・今後の取組の方向性） 新幹線整備については、昭和 39 年に東海道新幹線が開業して以降、順次新幹線ネットワークが構築されてきており、令和 4 年に九州新幹線（武雄温泉・長崎間）、令和 6 年に北陸新幹線（金沢・敦賀間）が開業した。 現在、北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）、北陸新幹線（敦賀・新大阪間）、九州新幹線（新鳥栖・武雄温泉間）の各整備計画路線の着実な整備に取り組んでおり、引き続き、関係自治体や鉄道事業者などと連携協力し、着実に新幹線ネットワークの構築を進めていく。

外部有識者のコメント
・整備新幹線整備の視点では(74)指標のうち整備新幹線整備による効果を概算・推計でも分離して示せるとよりよい。 ・その点では参考指標(参 105) 「北陸新幹線・九州新幹線の開業を通じた交流人口の拡大」が今後測定できれば、まさに参考になるのではないかと。 (国土交通省政策評価会 平田 輝満)

評価実施時期
令和 7 年 8 月

担当部局名・作成責任者名
・施策目標 23 鉄道局幹線鉄道課 課長 軽部 努
・業績指標 73 担当課：鉄道局幹線鉄道課（課長 軽部 努）
・業績指標 74 担当課：鉄道局幹線鉄道課（課長 軽部 努）

関連事務事業等

番号	事業名	予算事業 ID
1	整備新幹線整備事業	004293
2	整備新幹線建設推進高度化等事業	004294

参考指標の達成状況

施策目標：23 整備新幹線の整備を促進する

参考指標							
(参 105) 北陸新幹線・九州新幹線の開業を通じた交流人口の拡大（①北陸新幹線、②九州新幹線）							
	初期値	実績値					目標値
	－	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度	－
実績値	①－ (令和 5 年度)	①－	①－	①－	①－	①－	①15%増 (令和 8 年度)
	②－ (令和 4 年度)	②－	②－	②－	②－	②－	②15%増 (令和 7 年度)
年度ごとの 目標値		－	－	－	－	－	

担当部局名・作成責任者名
・参考指標 105 担当課：鉄道局幹線鉄道課（課長 軽部 努）

業績指標登録票

【政策目標】	6 国際競争力、観光交流、広域・地域間連携等の確保・強化		
【施策目標】	23 整備新幹線の整備を推進する		
【業績指標】	(73)鉄道整備等により5大都市からの鉄道利用所要時間が新たに3時間以内となる地域の人口数*	業績目標	
		初期値 (基準年度)	目標値 (目標年度)
		0 (令和6年度)	120万人 (令和16年度)
【指標の定義】	5大都市(札幌、東京、名古屋、大阪、福岡)の各中心駅からJR等の幹線鉄道により、新たに3時間以内に到達出来る地域の人口数		
【目標設定の考え方・根拠】	広域的な幹線鉄道ネットワークの質的向上により全国一日交通圏の形成に一層寄与する観点から、今後予定される整備新幹線の整備により、5大都市(札幌、東京、名古屋、大阪、福岡)の各中心駅から、新たに3時間以内に到達することが出来ることになる地域の人口数を目標値として設定。ただし、実績値については、外部要因(鉄道事業者によるダイヤ改正)の影響を受ける。		
【外部要因】	鉄道事業者によるダイヤ改正等		
【他の関係主体】	地方公共団体(建設財源の一部を負担)、鉄道事業者(営業主体)		
【重要政策】	整備新幹線問題検討会議決定 「整備新幹線の整備に関する基本方針」(平成21年12月24日) 「当面の整備新幹線の整備方針」(平成21年12月24日) 「整備新幹線の未着工区間等の取扱いについて」(平成22年8月27日) 「整備新幹線問題に関する今後の対応について」(平成22年12月27日) 「整備新幹線の取扱いについて(政府・与党確認事項)」(平成23年12月26日) 「整備新幹線の取扱いについて(政府・与党申合せ)」(平成27年1月14日)		
【備考】			
【担当課】	鉄道局 幹線鉄道課		
【関係課】			

業績指標登録票

【 政 策 目 標 】	6 国際競争力、観光交流、広域・地域間連携等の確保・強化		
【 施 策 目 標 】	23 整備新幹線の整備を推進する		
【 業 績 指 標 】	(74)新幹線を利用する旅客数	業績目標	
		初期値 (基準年度)	目標値 (目標年度)
		1億5630万人 (令和2年度)	3億7000万人 (令和6年度)
【 指 標 の 定 義 】 新幹線各路線を合算した年間合計旅客数 対象路線:東海道新幹線、山陽新幹線、東北新幹線、北海道新幹線、上越新幹線、北陸新幹線、九州新幹線			
【目標設定の考え方・根拠】 令和3年5月28日閣議決定された第5次社会資本整備重点計画において、重点目標「持続可能で暮らしやすい地域社会の実現」のため、「整備新幹線、リニア中央新幹線等の人流・物流ネットワークの早期整備・活用を推進」が位置づけられている。 整備新幹線の延伸の進捗に基づく、新幹線各路線の合計旅客者数の増加を目標値として設定。なお、旅客数量の増減は、新型コロナウイルスによる影響等が外部要因として挙げられる。			
【 外 部 要 因 】 民間事業者による運行本数の増減、新型コロナウイルスによる影響			
【 他 の 関 係 主 体 】			
【 重 要 政 策 】			
【 備 考 】			
【 担 当 課 】	鉄道局 幹線鉄道課		
【 関 係 課 】			